

令和6年度 山城地方教育 実践フォーラム を開催しました

確かな学力の育成を目指して、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善に取り組み、山城地方の小・中学校における学力の充実・向上の一層の推進を図るため、「山城地方教育実践フォーラム」を開催しました。

当日は、管内の教員が公開授業を参観した後、全体会をワークショップ会場にてオンラインで視聴しました。ワークショップでは、公開授業や全体会での気づきや学び、自身の実践などをもとに授業改善をどのように進めるかについて、協議しました。

日 時	令和6年 11 月 8 日(金) 13 時40分から 16 時 30 分まで
会 場	宇治市立御蔵山小学校 ・ 宇治市立東宇治中学校
主 催	京都府山城教育局・山城地方学力向上対策会議
出 席 者	管内小・中学校教職員(学力担当教員、研究主任、教務主任、山城地方小・中学校授業実践リーダー育成研修会受講者 等) 管内幼稚園・認定こども園教職員(希望者) 管内府立学校教職員(希望者) 管内各市町(広域連合)担当指導主事、各地方校長会学力向上対策会議担当校長 等 計 205 名

日 程

	宇治市立御蔵山小学校	宇治市立東宇治中学校
公開授業 (5校時)	2年2組 島田 直人 (国語科) 「思いうかべたことをもとに、お話をしようかいしよう」 『みきのたからもの』 4年1組 東 裕樹也 (国語科) 「中心となる語や文を見つけて要約し、調べたことを書こう」 『未来につなぐ工芸品』 5年4組 中村 臨太郎 (国語科) 「資料を用いた文章の効果を考え、それをいかして書こう」 『固有種が教えてくれること』	1年5組 竹下 こゆき (数学科) ※少人数授業 「第4章 変化と対応」『比例、反比例の利用』 2年 1 組 李 京旻 (外国語科) 「Unit7 Amazing Australia」 3年2組 谷井 亮太 (宇治学〈総合的な学習の時間〉) 「宇治市への提言」
全体会・ワークショップ	(1) 開会行事 ア 開会挨拶 京都府山城教育局 局 長 坂田 康一 イ 課題提起 京都府山城教育局 指導主事 杉山 尚 (2) ワークショップ(公開授業別) (3) 閉会行事 閉会挨拶 山城地方学力向上対策会議 会 長 宇治田原町立宇治田原小学校長 芦田 浩章	

宇治市立御蔵山小学校 公開授業レポート

2年 国語科

「思いうかべたことをもとに、お話をしようかいしょう」

『みきのたからもの』 授業者 島田 直人 先生

今年度の教科書改訂により、物語文「みきのたからもの」が新たに掲載されました。本単元では登場人物の様子を具体的に想像し、最後に物語を紹介する文章を書きます。前時までには、児童は「自分が『ふしぎだな。』』と感じたところをクラスで交流する中で、2年2組の問いを設定しました。「なぜ、みきが将来の夢を宇宙飛行士と答えるようになったのか。」の答えを見付けるために、まずは、自分で考え、次に、似たところを選んだ友だちと意見を交流しました。小グループで話し合うことで一斉授業では意見を言いづらい児童も安心して話合いに参加する様子が見られました。また、全体交流では、違うグループの意見を聞いて、「なるほどね。」「おう。」といった自然な返事が出ていました。自分と違った意見に触れ、新しい価値に気付く協働的な学びが、児童の深い学びの実現につながった授業でした。



4年 国語科

「中心となる語や文を見つけて要約し、調べたことを書こう」

『未来につなぐ工芸品』 授業者 東 裕樹也 先生



単元の導入では、たくさんの工芸品と工芸品を紹介した本を準備し展示しながら、教材文を読み始めました。本文中の「工芸品にみりよくを感じたら、『一人の職人』になって、(中略)伝えてみてください。」という筆者の呼びかけに答える形で、本単元の学習を始めました。

本時の授業では、工芸品の魅力を友達に紹介するため、目的に応じて資料を要約する力を身に付けるべく、グループで要約文の推敲に取り組みました。途中、「お悩み相談」という形で、個々のグループの課題を共有し、全

体で最適解を探すことで、グループごとに活動している子どもたちの学びを深めました。

振り返りでは、「〇〇法(子ども達のネーミング)を使うことなど、要約の仕方が分かった。」と、要約のポイントを具体的に理解したことが分かるような発言があり、子どもたちの学びの深まりがうかがえる授業となりました。

5年 国語科

「資料を用いた文章の効果を考え、それをいかして書こう」

『固有種が教えてくれること』 授業者 中村 臨太郎 先生

本単元をデザインするにあたり、『固有種が教えてくれること』を、子どもたちが必然性を持って読み、獲得した知識技能(資料を用いた文章の効果)を使って、自然環境について自分事として考え、レポートを書くためには、どのような導入が必要かを考えました。

そこで本時では、①自然環境への興味を抱くためのしかけや、②単元のゴール(アウトプット課題)を設定し、③既習事項を踏まえた上で、④子どもたち同士で単元計画を考えました。アウトプット課題を達成するためには、どのような流れで学習を進めていくのが良いか、グループで出し合う中で、本単元の学習に見通しを持ち、個々が自らの学びをマネジメントする姿が見られました。

子どもたちと先生との信頼関係や、互いに認め合う学級集団が学びの土台であることが感じられる授業でした。



宇治市立東宇治中学校 公開授業レポート

1年 数学科 「第4章 変化と対応」『比例、反比例の利用』

授業者 竹下 こゆき 先生



比例・反比例を活用し、身の回りの問題を解決する事を単元のゴールとして、本時では、比例・反比例を利用してテーマパークの回り方を考える学習を行いました。生徒たちは、アトラクションの待ち時間を、「 x 分で乗れる人数を y 人」として、比例の式を立式する事で、比例定数を導き出しました。比例定数をもとに各アトラクションの待ち時間を算出し、自分たちが行きたいアトラクションと待ち時間を考えながらグループの行動計画を作成しました。

パフォーマンス課題の評価については、本単元用に作成したルーブリックに基づき、本時は「立式」を評価し、次時は「算出した待ち時間を活用して行動計画を作成しているか」について評価しました。

2年 英語科 「Unit7 Amazing Australia」

授業者 李 京旻 先生

新入生半日体験を控えているタイミングで、単元目標を「小学6年生が前向きな気持ちで中学生生活をイメージできるよう、小学校との違いや中学校生活の特色・魅力を『中学校紹介動画』にまとめ、伝えることができる」と設定しました。東宇治中学校のことをさらに知ってもらうために、という目的と、小学6年生という相手意識を持たせることで、生徒は主体的に言語材料を活用した紹介文を作成しようとする姿が見られました。一人学びでは英作することが困難な生徒もいるため、まずは活用できる形容詞カードを選ぶことから始め、次にペアやグループでどのような紹介文を作成すれば小学6年生が前向きな気持ちを持ってもらえるだろうかと試行錯誤しながら考えていました。間違った発言も受け入れてもらえる心理的安全性のある教室で、中間指導を受けて生徒が自己調整を図りながら笑顔で生き生きと学ぶ姿が見られました。



3年 宇治学〈総合的な学習の時間〉「宇治市への提言」

授業者 谷井 亮太 先生



9月から始まった本単元ですが、第3学年の先生方が生徒の実態に応じた学習課題を設定され、生徒も自分事としてワクワク感を持って取り組んでいる様子うかがえました。

公開授業の前時に学級内で行ったグループ発表では、発表原稿を読むのではなく、生徒自身の言葉で発表する生徒や、発表内容を聴きながらワークシートにメモを取る生徒がいる等、普段の各教科等での学びを生かしていました。今後は、改善案を作成し、より分かりやすいプレゼン

テーション資料を作成できるように、さらに主体的に学習に取り組まれます。

ワークショップ

公開授業別のワークショップ会場にて、山城教育局指導主事が進行役となり協議の柱に沿って交流協議を進めました。参加された先生が、公開授業で得た気付きや学びと、自身の実践とつなげながら、授業改善のイメージを広げたり、深めたりするなど活発な協議が行われました。



協議の柱

1. 主体的な学びとなる単元構想・授業づくり
2. 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実
3. 学習指導と生徒指導の一体化

令和6年度山城地方教育実践フォーラム「振り返りシート」より(抜粋)

公開授業・授業改善の3つの視点を踏まえ、本日最も学びと感じられたこと

1. 主体的な学びとなる単元構想・授業づくり
2. 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実
3. 学習指導と生徒指導の一体化

主体的な学び・活発な意見交流による深い学びにつながる仕掛け作りや、すべての生徒を巻き込む仕掛け作りなど、単元の課題設定の工夫や普段のクラス作りが大切だと感じました。

授業の学習形態を、児童に考えさせることでの主体的な学びを引き出す方法を学びました。また、単元の goal を示す際に、その goal の先の目的をも考えて、生きていく力の育成を目指す授業づくりをしていくべきであることを学びました。

授業の要は、学級経営をはじめとした「生徒指導」が基盤となっていることがよく分かる授業でした。先生の声かけ、言葉遣いを意識させる掲示物、それらが積み重なることで、児童が互いに学び合うことができる授業であると再認識できました。

主体的な学びになるように授業に工夫をこらす先生方のアイデアや視点。そして、日々の実践から振り返り、また子どもたちに返していく先生方の姿勢が大変学びとなりました。

1.では、生徒たちが意欲的に取り組めてモチベーションの上がる仕掛けや目標設定が、何より大事だと思いました。2.では、基本の定着を大事にしながら、個人→ペア→グループという流れをパターン化し、間違いを許し合える温かな人間関係づくりを大事することを、3.では、学習指導が学年や学級経営に直結すると考え、生徒たちが高め合うことが自分たちの生活や環境を良くすることに繋がる実感を持たせることが大事だと再認識させていただきました。

日常の学級経営が児童のリアクションに出ると思いました。支援の必要な児童への声かけから、小さな成果であっても見逃さずに声かけしていくことで児童一人ひとりの自己肯定感が育ち、お互いを認め合う関係づくりができていると感じました。

中学3年の総合は、生徒が自ら分野を選択して調べ学習を行い、発表をするという学習の流れが、この1時間を見ただけでも伝わるような授業でした。生徒が学習の流れを理解することで、より主体的な学びが実現できると気付きました。

また、PCDA サイクルが確立された学びによって、生徒が考えを練り上げていくことが習慣になっており、他者評価も的確に行われていました。日々の積み重ねの大切さを感じました。

生徒の主体的な学びにつながるためには、単元の目標設定が大切であると感じました。

単元構想についての学びが大きかったです。子ども達が興味関心をもてる課題設定が重要だと再確認できました。単元構想の方法などは自校と似た考えだったので、自校の研究をより深めていくことにも繋がると感じました。また、授業においても本時で何を学ぶのか、何の為に学ぶのかが明確になっており、子ども達も自分を振り返りやすく、次への見通しをもったり、自己の成長を感じられたりする授業になっていました。

グループ協議の中で、①児童生徒が興味関心を持てるテーマを考えること ②積極的に ICT を活用したまとめ・交流(考えの広がり) ③共同編集などで自分の意見が素直に出せるクラス作りについて意見を出し合いました。3 つとも今すぐにも実践に活かせる内容なので取り入れていきたいです。

一人学びとグループ学習の時間確保をしておられました。個別学習の学びとして、全文シートやワークシートで自分の考えを整理することができていました。その後、同じ考えの人と協働学習することで、一人学習からグループ学習へのステップアップになっていました。ICT を活用した学習整備として、ワークシートをテレビ画面に映し、指示を出す U D の視点、ホワイトボードを拡大し全体共有する工夫を学びました。

本日の学びを自校で広めるために、自身・自校でできそうなこと

～組織的な授業改善を目指して～

学ぶことの意義や目的を明確にした授業づくりをしていきたいです。

総合の年間計画の見直しとゴール設定の再検討。宇治学は市との連携も密で、生徒の関心も高いように感じます。本校でも3年間を通じた学習計画をより体系的なものに改善していきたいです。

単元構想や授業構想を協働で行い、新たな視点や課題設定についてお互いを高めあえるようにする。また、今回の授業で学んだことを研修などで自校に広め、学校全体で授業改善や、子どもが「なんの為に」がはっきりし、自己の成長を振り返ることができる活動を考えていきたいです。

個々の意見を表現できる雰囲気作りと個々の意見を表現し合う場を多く設けて日常化することをしていきたいです。

探究的な活動は生徒としても有意義な活動であると感じます。自分で課題設定→探究→発表→改善といったPDCAサイクルを回す活動は、社会に出て行っても求められるスキルなので、中学校段階でその経験が積ませることができるようになりたいです。

協働的な学びについて考える機会になりました。個別→グループという流れで活動を組み立てることが多かったのですが、グループで一つのものを作り、そこから自分にフィードバックしていくという流れも実践していると感じました。

授業づくりから単元づくりへと、視野を広げた教材研究の大切さを広めていきたいです。

個別最適と協働的な学びを単元のどこで設定するのか、また、1時間の授業のどこに設定するのかの的確な見通しを教師側がもつことで、大きな力を発揮できることを今後も模索し実践していきたいです。

生徒による英文添削・長期ゴールと単にゴール（授業のめあて）を明確にすることや、「ワクワクするよな」めあてを設定することを実践していきたいです。

パフォーマンス課題は悩むことも多いですが、どの学校も頑張っており取り入れていることを知りました。単元を貫く問いになるような課題を設定できるように頑張りたいです。

失敗を認められる空間づくり。授業の中でそのような場面を設けていきたいと思っています。

まずは、集団づくりを今一度一番大事にしていきたいです。学級、学年、授業担当学級、部活動など、日頃関わる集団で共感的な人間関係が作れるように働きかけを行ってきたいです。そして、授業の中で、グループワークやモチベーションの上がる課題設定を行っていきます。

子どもの興味関心に基づいた単元を貫く問いを子どもたちと一緒に作り出すような授業の持っていく方をしてみたいと思いました。

様々な教師のアイデアや、そしてそれを実践に活かすための教師一人一人の良さを認める職員室づくりを心がけていきたいです。

学習指導の基本的な指針として、「やましろ授業スタンダード」の周知・活用をはじめ、次年度に向け、授業づくりの基本的な方針を策定できればと思います。今回のフォーラムで学んだ内容を勤務校に持ち帰り、研究推進部の教員（管理職も含めて）を中心に授業改善に向けての検討を進めていきたいと思っています。

研究を行っていく上で、教職員のベクトルを揃えることがとても難しく感じています。しかし、学力を向上させるには、学年任せになるのではなく、学校として貫いたものが不可欠ということが今日改めてわかったので、今後の研究に活かしていきたいです。